

デザイン・工芸学科

1. 教育内容

デザイン・工芸学科では、社会における人と人とのコミュニケーション、人とモノの関わり、人と環境のあるべき姿の考察、および独創的な創作活動の実践を行います。そのために専攻する各デザイン分野と工芸分野に関する基礎的な知識と技能・技法を習得し、豊かな感性や創造的な発想力をもって、実践的な企画や表現として実現する力を身につけます。また、専攻を超えた横断的な幅広い視野・技術・感性を実体験から養い、柔軟な思考をもって他分野との連携をはかり、時代に即応し活躍できる人材を養成することを目標とした教育内容となっています。

2. カリキュラム編成の特徴

学科共通科目は、デザイン・工芸に関する分野を幅広く学ぶ科目群です。デザイン・工芸選択実技A、デザイン・工芸選択実技B、デザイン・工芸連携プロジェクトA～Dは、専攻横断型、専攻連携型の実技科目です。他に横断的な理論的知識を学ぶ科目としては、必修科目のデザイン・工芸論A、デザイン・工芸論Bのほか、デザイン図法、印刷概論、プロダクトデザイン概論、環境デザイン概論、素材演習A～F、工芸史A、工芸史Bなどのデザイン・工芸に関する基礎的な講義・演習科目があり、各自が学習計画をたてて選択履修します。

デザイン・工芸学科 教育目標・人材の養成に関する目的	デザイン・工芸学科では、多様性を尊重する社会に対応すべく、ヴィジュアルコミュニケーション、プロダクト、環境、工芸の領域で幅広い視野・技術・感性を実践する専門性に裏打ちされた独創力と領域の境界を跨いだ俯瞰的な発想力により、多角的かつ国際的な思考力とコミュニケーション力、マネジメント力を持ったクリエイターの育成を目指します。
-------------------------------	---

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目	
デザイン・工芸学科 専門科目 (学科共通科目)	デザイン・工芸学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、各専攻のカリキュラムと学科共通科目を通して、他専攻との横断的実技を経験することで、デザインと工芸分野を中心とした幅広い知識や国際感覚、コミュニケーション力を身につけ、専門領域での表現を広げ、反映できるカリキュラムを編成します。	/	
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	デザイン・工芸の領域における基礎的な知識と技能を習得・理解し活用する能力を身に付けている。	デザイン・工芸の領域における基礎的な知識を習得・理解し、領域を横断的に活用できる能力を身に付ける科目を配置する。	1年次 【講】 デザイン・工芸論 A 【講】 デザイン・工芸論 B 【講】 デザイン図法 1～3年次 【講】 デザインと法 【講】 現代造形論 2年次 【講】 ヴィジュアルデザイン概論 【講】 プロダクトデザイン概論 【講】 環境デザイン概論 【講】 工芸史 A 【講】 工芸史 B 2～4年次 【講】 建築生産 I 4年 【講】 建築生産 II
	【関心・意欲・態度】 (多様性・柔軟性・適応力・コミュニケーション力)	表現者として、デザイン・工芸の領域にとらわれず、広く、社会・環境・資源や、人・物事・素材への関心を深め、理解する能力と態度を身に付けている。	演習や研究を通して、幅広い知識や技法を理解し、関心を深めることで、専門分野についての意識や感覚、各自の将来への展開を自覚し高める科目を配置する。	1～3年次 【演】 色彩計画演習 【演】 素材演習 A 【演】 素材演習 B 【演】 素材演習 C 【演】 素材演習 D 【演】 素材演習 E 【演】 素材演習 F 【講】 日本服装史 【講】 文様史 【講】 伝統染織文化論 【講】 テキスタイル表現論 【講】 写真史 2年次 【演】 エコロジカルプランニング演習 【演】 ライティング演習 2～4年次 【講】 建築材料学 【講】 建築法規
		デザイン・工芸の領域におけるプロフェッショナルとして、社会で実践するための基本的な態度と俯瞰的な視野をもち、多様性を尊重し、社会に訴えかける能力と態度を身に付けている。	社会と表現活動との関わりや、明確に伝達するための理論や技術を習得し、社会で実践する能力を高める科目を配置する。	1～3年次 【演】 コンピュータプレゼン演習 A 【演】 コンピュータプレゼン演習 B 【講】 広告論 2・3年次 【演】 映像表現演習 A 【演】 映像表現演習 B 【演】 英語プレゼンテーション
	【思考・判断】 (創造的思考力・学際的思考力・マネジメント力)	論理的な思考と情緒的な思考を理解するとともに、領域を横断的に学び、俯瞰的思考を持つことにより、独創的な発想や物事の解決に結び付ける能力と態度を身に付けている。	デザイン・工芸の領域と社会の関係性を学際的に学び、理解をすることで、社会や創作活動で実践にかかわる能力を高める科目を配置する。	1～3年次 【演】 バリアフリー演習 【講】 マーケティング論 【講】 人間工学論 【講】 デザイン心理学 【講】 デザインサーベイ論
	【技能・表現】 (独創力、実践力)	デザイン・工芸分野において必要とされる技能、表現力を身に付け、新たな価値を創造する能力と文化的でより良い暮らしや社会への貢献に取り組むことができる能力と態度を身に付けている。	デザイン・工芸の領域における幅広い技能を横断的に学び、深めることで、自身の表現の場を拡げるとともに、社会活動・創作活動において実践する能力を養う科目を配置する。	1年次 【実】 デザイン・工芸選択実技 A 【実】 デザイン・工芸選択実技 B 1～3年次 【講】 展示計画論 【講】 空間演出論 【演】 造形演習 A 【演】 造形演習 B 【演】 造形演習 C 【演】 造形演習 D 2年次 【演】 写真演習 3年次 【演】 デザイン・工芸連携プロジェクト 4年次 【講】 構造計画 【講】 建築設備

デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻

1. 教育内容

ヴィジュアルデザイン専攻では多様化する時代に応じ、的確で新しいヴィジュアルコミュニケーションの可能性を探求します。

具体的にはグラフィックデザインを中心に、タイポグラフィ、イラストレーション、写真、印刷、映像、Web、パッケージデザイン、TVCM、アニメーション、キャラクターデザイン、ブランディング、モーショングラフィック、編集、プレゼンテーション、広告におけるアートディレクション等、さらに新たな媒体における表現を見据えた多岐にわたる授業が用意されています。

それぞれの授業ではアナログやデジタルにかかわらず、表現の核心を追求します。社会でコミュニケーションが大きな意味を持つ中で、「ヴィジュアルデザイン」は非常に有効かつ豊かな手段です。社会の変化に対応しつつ時代の息づかいを敏感に吸収し、自らの創造力で新しいヴィジュアルデザインを提示できるクリエイターを育成します。

2. カリキュラム編成の特徴

- (1) 1年次では、ヴィジュアルコミュニケーションに重要な「色とかたち」「文字とことば」を軸に様々な素材、表現に触れながら、ものの見方、捉え方において多角的な視点を持つ観察力を養います。選択実技では専攻間を横断した実技を学び、制作における基礎能力を養います。
- (2) 2年次を通して行われるヴィジュアルデザイン基礎演習では、ヴィジュアルデザインに必要な基礎を習得します。単にスキルのみを習得するのではなく、観察、発見、発想、検証、表現といったプロセスを、実技体験をしながら理解しクリエイターとしての基盤を構築します。また、表現演習では多様な表現方法や情報を学び、基礎能力を広げていきます。
- (3) 3年次からのヴィジュアルデザイン演習では、専門的なヴィジュアルデザインを学びます。前期は「グラフィックデザイン」と「アートディレクション」の2コースのどちらかを選択します。「グラフィックデザイン」ではグラフィックデザイナーとしての専門性と能力向上を目指し、「アートディレクション」ではグラフィックデザインのスキルを基にアートディレクターとしての幅広いコミュニケーション力、問題解決力を身につけます。後期はさらに細分化された専門性の高い授業が幅広く用意され、その中から選択することによって個々の目標を明確に実現し、卒業後の進路につながることのできるカリキュラムになっています。
- (4) 4年次では、前期はこれまでの学習をふまえた専門領域から2つを選択し、興味のあるデザイン分野をより深く体験、研究して後期の卒業制作へと繋げていきます。

デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻 教育目標・人材の養成に関する目的	ヴィジュアルデザイン専攻では、デザインの基礎・理論・本質を理解し、グラフィックデザインを中心に多様性を尊重する社会に対応し、その過程で国際的な視野と客観的な視点、デザインによる問題解決能力などを向上させ、変化に柔軟に適応しうるクリエイターを育成する。
---	---

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目	
デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻 専門科目	デザイン・工芸学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。		
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	デザイン・工芸の領域における基礎的な知識と技能を習得・理解し活用する能力を身に付けている。	ヴィジュアルデザイン領域における制作の基礎となる知識を学び、教養を身につけ、技術を習得できる科目を配置する。	1年次 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演 I - A 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演 I - B 【演習】表現演習 I - A 【演習】表現演習 I - B 2年次 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演 II - A 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演 II - B 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演 II - C 【演習】表現演習 II - A 【演習】表現演習 II - B
	【関心・意欲・態度】 (多様性・柔軟性・適応力・コミュニケーション力)	表現者として、デザイン・工芸の領域にとらわれず、広く、社会・環境・資源や、人・物事・素材への関心を深め、理解する能力と態度を身に付けている。	表現の探究と思考を深めつつ、ヴィジュアルデザインおよび周辺領域への関わりを理解し、実践するための科目を配置する。	1年次 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演習 I - C 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演習 I - D 2年次 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演習 II - D 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演習 II - E
		デザイン・工芸の領域におけるプロフェッショナルとして、社会で実践するための基本的な態度と俯瞰的な視野をもち、多様性を尊重し、社会に訴えかける能力と態度を身に付けている。	ヴィジュアルデザインの理論と実践を通し、自身の考えや表現が、社会と関わり繋がっていくことを意識して模索するための科目を配置する。	3年次 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 I - A 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 I - B 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 I - C 【演習】表現演習 III - A 【演習】表現演習 III - B
	【思考・判断】 (創造的思考力・学際的思考力・マネジメント力)	論理的な思考と情緒的な思考を理解するとともに、領域を横断的に学び、俯瞰的思考を持つことによって、独創的な発想や物事の解決に結び付ける能力と態度を身に付けている。	ヴィジュアルデザインと関わる多岐にわたる表現を研究、体験しながら視野を広げ、独創的な創作活動と客観的な論理的思考、学際的な応用力を身につけるための科目を配置する。	3年次 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 I - D 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 I - E 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 I - F 4年次 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 II - A 【演習】ヴィジュアルデザイン演習 II - B
	【技能・表現】 (独創力、実践力)	デザイン・工芸分野において必要とされる技能、表現力を身に付け、新たな価値を創造する能力と文化的でより良い暮らしや社会への貢献に取り組むことができる能力と態度を身に付けている。	具体的な実技の体得や、課外活動を体験し、総合的な視点で創作を考え自身の表現の幅を広げることができ科目を配置する。	2年次 【演習】ヴィジュアルデザイン基礎演習 II - F 4年次 【実技】卒業制作

デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻

1. 教育内容

近年デザインは社会の様々な分野で求められ、デザインが果たす役割は広がっています。プロダクトデザイン専攻では、ものづくりを起点に人の豊かな生活、かわいい・楽しいなど感性に届けるデザイン、私たちを取り巻く社会の課題解決まで広い視野を育てます。4年間の授業プログラムは、観察する力を養い、素材や技術の学びを通して身近なモノの成り立ちや美しさを理解する基礎演習から始まり、他専攻と領域を横断するデザインを経験できるプログラムを構成しています。2年次では、文化やライフスタイルなど人を取り巻く情報とモノとの関係から発想する力を身につけます。3年次では「かわいい」を探究する雑貨、企業とのコラボレーションなど、プロの思考技術に近づき臨場感ある授業へステップアップして実践力を高めます。最終学年では、身に付けた力を総合的に活かして社会が抱える課題の解決という広い視座のデザインを学びます。このように現代社会のニーズに対応する多様な力を段階的に養うカリキュラムを構築しています。また3年次からの実技課題は課題テーマを選んで受講する選択授業となり、少人数クラスの充実した指導体制です。知識や技術の習得だけではなく、個性を尊重した学びを提供します。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次

【観察する・考える・つくる】

デザインの基礎となる観察力・表現力・立体感覚を養います。スケッチやモデル制作、CG演習、表現演習、デザイン図法など多角的に表現技法を習得します。実技課題は、様々な素材の特徴を学び制作する過程で、「つくること」の視点を通して「身の回りのプロダクトがどのように作られているのか」という外への気づきを学びます。

2年次

【調べる・つなげる・つくる】

1年次に引き続き表現演習、CG演習でさらに表現技術を高めるとともに、プロダクトデザイン概論、プロダクトデザイン史等の座学授業から専門的な知識を学びます。実技授業ではモノを取り巻く情報を調べ、人と物との関係性に向き合います。「ブランディング」「アクセサリー」「木工玩具」等のデザインを通してコンセプト、ストーリーを立てる思考力、それを的確にモノで表現する実行力を習得します。

3年次

【コトを深掘り・実践力をつける】

選択授業による少人数制になり、テーマを深掘りしてアウトプットすることを習得します。かわいい雑貨など、女子美らしいテーマをはじめ、企業とのコラボレーションを中心に課題を構成し、社会との接点を増やすことで刺激を受け自発的に学ぶ力と実践力を養います。

4年次

【社会に目を向け総合力を発揮する】

第1課題では社会課題をテーマとしたデザインに取り組むことで、人や社会に貢献するデザインのあり方を学び、卒業制作に取り組みます。社会を俯瞰しデザインの多様な役割を深めた上で、4年間の学びの集大成として作品の研究制作に挑戦します。

デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻教育目標・ 人材の養成に関する目的	プロダクトデザイン専攻では、社会において柔軟なデザイン活動ができるよう、学内外での実体験を通して、プロダクトデザイン本来の意味を理解し、専門領域としての基礎技術である「発想力」・「技術力」・「表現力」を習得した上で、各自の個性を生かし、高い美意識やデザイン能力を有する人材の育成を教育目標とする。
--	--

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目	
デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻 専門科目	デザイン・工芸学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。		
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	デザイン・工芸の領域における基礎的な知識と技能を習得・理解し活用する能力を身に付けている。	プロダクトデザイン領域における基礎的な知識を習得・理解し、立体物を表現する技術や能力を身に付ける科目を配置する。	1年次 【演】プロダクトデザイン基礎演習A 【演】プロダクトデザイン基礎演習B 【演】プロダクトデザイン基礎演習C 【演】プロダクトデザイン基礎演習D 【演】プロダクトデザイン基礎演習E 【演】プロダクトデザイン基礎演習F 【演】CG演習I 【演】表現演習I 2年次 【演】CG演習II 【演】表現演習II 【講】プロダクトデザイン史 3年次 【演】3D-CG演習
	【関心・意欲・態度】 (多様性・柔軟性・適応力・コミュニケーション力)	表現者として、デザイン・工芸の領域にとらわれず、広く、社会・環境・資源や、人・物事・素材への関心を深め、理解する能力と態度を身に付けている。	思考の探究、表現の研究を通して、プロダクトデザインの領域を幅広く理解し、関心を深め、実践するための科目を配置する。	2年次 【演】プロダクトデザイン演習A 【演】プロダクトデザイン演習B 【演】プロダクトデザイン演習C 【演】プロダクトデザイン演習D 【演】プロダクトデザイン演習E 【演】プロダクトデザイン演習F
		デザイン・工芸の領域におけるプロフェSSIONナルとして、社会で実践するための基本的な態度と俯瞰的な視野をもち、多様性を尊重し、社会に訴えかける能力と態度を身に付けている。	プロダクトデザインの専門領域を中心に関心を深めていきながら、周辺領域の知識や応用能力、社会性を身につけ、社会で実践する能力を高める科目を配置する。	3年次 【実】プロダクトデザインIAa 【実】プロダクトデザインIAb 【実】プロダクトデザインIBa 【実】プロダクトデザインIBb 【実】プロダクトデザインICa 【実】プロダクトデザインICb 【実】プロダクトデザインIDa 【実】プロダクトデザインID
	【思考・判断】 (創造的思考力・学際的思考力・マネジメント力)	論理的な思考と情緒的な思考を理解するとともに、領域を横断的に学び、俯瞰的思考を持つことによって、独創的な発想や物事の解決に結び付ける能力と態度を身に付けている。	プロダクトデザインの領域と社会の関係性を学び、理解をすることで、社会性のあるテーマに対し、条件を整理・分析し、幅広くデザイン表現に活用する力を養う科目を配置する。	4年次 【実】プロダクトデザインIIAa 【実】プロダクトデザインIIAb
	【技能・表現】 (独創力、実践力)	デザイン・工芸分野において必要とされる技能、表現力を身に付け、新たな価値を創造する能力と文化的でより良い暮らしや社会への貢献に取り組むことができる能力と態度を身に付けている。	プロダクトデザインの専門領域の技能を学び、深めることで、自身の表現の場を拡げるとともに、社会活動・創作活動において実践する能力を養う科目を配置する。	4年次 【実】プロダクトデザインIIBa 【実】プロダクトデザインIIBb 【実】卒業制作

デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻

1. 教育内容

本専攻は、ボーダレス化の進む現代社会において、国際的な価値観と多様性を持った先端的なクリエイターの育成を目的としています。そのために幅広いデザイン・工芸領域から基礎知識を習得した上で、環境デザインの専門領域の学習を進めていきます。

また本専攻では、美大生としての感性を生かした空間デザイナーを目指す学生のための授業と、一級・二級建築士等の資格などを目指す学生のための授業両方が開設されており、自らの感性と志望にあったカリキュラムを選択・計画し、環境デザインの専門性を深めていきます。

夢の実現を目指し、広い視野から物事を探求する力やデザイン現場でのプレゼンテーション能力を磨くと同時に、企業研修等を通して社会で働くための実践力も身に付けることを目標としています。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次

デザインの基礎的な課題（平面・立体・空間）をとおして、空間デザインの発想力を学ぶと同時に、デザイン・工芸領域の科目を自由に選択し、基礎的な知識と技能を学びます。

2年次

環境デザインの基礎授業として、家具・ディスプレイデザイン・インテリア・庭・公園など内部・外部空間を様々な材料使ってデザインすることを学びます。

3年次

住宅系・商業系・街路景観系など、広い環境デザイン領域から、自らの志望にあった課題を選択・計画し、専門性を深めます。また希望者は企業研修等でデザインの現場を体験します。

4年次

前期は、自らの志望を更に深めるための課題を行い、後期は、テーマを自由に選択し4年間の集大成として卒業制作をします。専門領域の研究室でのゼミ形式授業です。

※デザイン・工芸学科環境デザイン専攻では、在学中に修得した科目によって、次の受験資格を取得できます。

- ・一級建築士受験資格（要必須科目）
- ・二級建築士受験資格（要必須科目）
- ・木造建築士受験資格（要必須科目）
- ・インテリアプランナー登録資格（要必須科目）
- ・商業施設士受験資格（要必須科目）

デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 教育目標・人材の養成に関する目的	環境デザイン専攻では、地域社会、あるいは地球規模環境において、創造的なデザイン活動ができるよう、国際的視野、異領域理解能力、そしてコミュニケーション能力を養い、社会の一員としてデザイン活動できる人材の育成を教育目標とする。
---	---

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目
デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 専門科目	デザイン・工芸学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、環境デザインに必要な知識、技術、応用能力を身に付け、幅広く空間デザインに取り組むことで、国際感覚とコミュニケーション力を養い、専門領域における表現力を涵養するカリキュラムを編成します。	
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	デザイン・工芸の領域における基礎的な知識と技能を習得・理解し活用する能力を身に付けている。	環境デザインの領域における基礎的な知識を習得・理解し、2次元、3次元での空間表現技術や能力を身に付ける科目を配置する。
	【関心・意欲・態度】 (多様性・柔軟性・適応力・コミュニケーション力)	表現者として、デザイン・工芸の領域にとらわれず、広く、社会・環境・資源や、人・物事・素材への関心を深め、理解する能力と態度を身に付けている。	演習や研究を通して、環境デザインの領域を幅広く理解し関心を深め、表現力やコミュニケーション力を高める科目を配置する。
		デザイン・工芸の領域におけるプロフェッショナルとして、社会で実践するための基本的な態度と俯瞰的な視野をもち、多様性を尊重し、社会に訴えかける能力と態度を身に付けている。	環境デザインの専門領域を中心に関心を深めていきながら、幅広い領域の知識や応用能力と社会性を身につけ、社会で実践する意欲と態度を高める科目を配置する。
	【思考・判断】 (創造的思考力・学際的思考力・マネジメント力)	論理的な思考と情緒的な思考を理解するとともに、領域を横断的に学び、俯瞰的思考を持つことによって、独創的な発想や物事の解決に結び付ける能力と態度を身に付けている。	環境デザインの領域と社会の関係性を学び、理解をすることで、社会性のあるテーマに対し、条件を整理・分析し、それをデザイン表現に活用する力を養う科目を配置する。
【技能・表現】 (独創力、実践力)	デザイン・工芸分野において必要とされる技能、表現力を身に付け、新たな価値を創造する能力と文化的でより良い暮らしや社会への貢献に取り組むことができる能力と態度を身に付けている。	環境デザインの専門領域の技能を学び、深めることで、自身の独創力を高めるとともに、社会活動・創作活動において実践する能力を養う科目を配置する。	

デザイン・工芸学科 工芸専攻

1. 教育内容

工芸は、人々の心や生活を豊かにするための造形芸術です。作り手は、技と自らの意思により、素材の特徴を生かしたものの作りが求められます。ものづくりの原点といえる領域であり、その表現や解釈は多様です。デジタル化が進む現代において、伝統を受け継ぎながらも新しい価値を生み出す可能性を持っています。

工芸専攻では、確かな技術と知識を習得し、伝統工芸から現代アートまで、生活・環境のため時代に即応した工芸作品を創造できる発想力・表現力を身につけます。また自らの手で根気よくものを作り上げていくことの大切さを学びながら、豊かな感性を育てていきます。工芸とデザインの双方を学び、専攻の垣根を超えた授業によって、これからの手仕事の可能性を見出し、柔軟な思考で新しい創作を開拓できる人材を育成します。

2. カリキュラム編成の特徴

●段階的なカリキュラム

工芸専攻では染・織・刺繍・陶・ガラスの5つの分野の工芸素材を扱います。

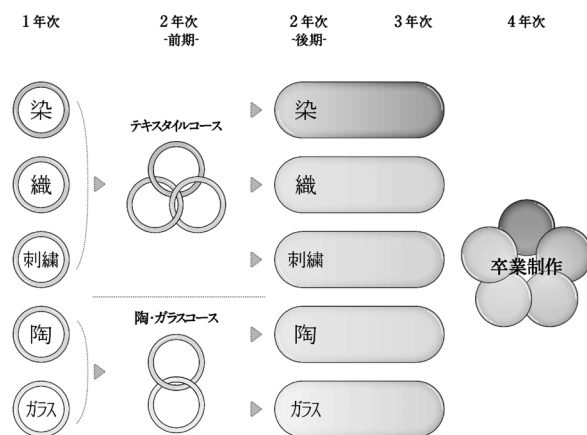
1年次では、工芸基礎造形においてデッサンと立体の基礎を学びます。合わせてそれぞれの分野で扱う素材に触れ、技法の基礎を学ぶことによって素材の特性を理解します。

2年次で「テキスタイルコース」または「陶・ガラスコース」のいずれかを選択し、専門的な知識と技術・制作方法を学び、素材への理解を深めます。

2年次後期からは、それぞれのコースでさらに染・織・刺繍・陶・ガラスの専門分野に分かれて学びます。時間をかけて知識と技術を積み上げていくことで幅広く、かつ深く創作活動を展開していきます。

さらに3、4年次で高い専門性を持った教員達が指導することで、完成度の高い卒業制作へと導きます。

段階的なカリキュラムと分野を超えて学ぶことができる体制により、自由で新しい表現活動を展開していきます。



●多彩な授業科目

デザイン・工芸学科工芸専攻では、伝統と先端、実習と知識のバランスを考慮した多彩な授業科目により、伝統工芸から現代アートまで、生活に根ざした工芸から表現を追求した美術まで、自由な創作活動が可能となります。

また学外研修・工房見学・特別講師による講義・学外展等、新しい企画を加えて学生の創作意欲を刺激するとともに、社会との接点を見出していきます。

【必修または選択必修科目】

1年次：CG 演習、デザイン・工芸論、デザイン・工芸選択実技

2年次：工芸史、材料学

3年次：プレゼンテーション演習

【学科共通科目】

造形演習、現代造形論、空間演出論、文様史、テキスタイル表現論、伝統染織文化論、日本服装史など。

テキスタイルコース

染：型染め、注染、絞り染め、スクリーン捺染など、伝統から現代までの染色技法を学び、「布」の表現の可能性を広げます。

織：絣などの伝統技術からテキスタイルアートまで、繊維素材を用いた自由な表現を展開します。

刺繍：伝統的な日本刺繍を基本にマシン刺繍や海外の刺繍などを学び、ステッチによる独創的な創作を目指します。

陶・ガラスコース

陶：粘土と釉（うわぐすり）などの素材を約800～1300度の高温で焼成することで造形表現を追及します。

ガラス：吹きガラスやキルンワークなどの技法を用いて、ガラスの特性を生かした新しいガラス造形を展開します。

デザイン・工芸学科 工芸専攻 教育目標・人材の養成に関する目的	工芸専攻では、伝統工芸から現代アートまで、時代に即した創作への発想力と表現力を身につけ、専門的な知識や高い技術力を備え、幅広く新しい視点で工芸を捉えることができる人材の育成を教育目標とする。
---------------------------------------	---

科目区分	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目
デザイン・工芸学科 工芸専攻 専門科目	デザイン・工芸学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、豊かな発想力と表現力、技術力を育むカリキュラムを編成します。	
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	デザイン・工芸の領域における基礎的な知識と技能を習得・理解し活用する能力を身に付けている。	初歩的な工芸制作の基礎となる知識と技術を学び、かつ広く教養を身に付ける科目を配置する。
	【関心・意欲・態度】 (多様性・柔軟性・適応力・コミュニケーション力)	表現者として、デザイン・工芸の領域にとらわれず、広く、社会・環境・資源や、人・物事・素材への関心を深め、理解する能力と態度を身に付けている。	専門の実技以外に関心を広げていくことで、工芸分野についての表現の探求と思考を深める科目を配置する。
	【思考・判断】 (創造的思考力・学際的思考力・マネジメント力)	論理的な思考と情緒的な思考を理解するとともに、領域を横断的に学び、俯瞰的思考を持つことによって、独創的な発想や物事の解決に結び付ける能力と態度を身に付けている。	多様化する社会に柔軟に対応していけるコミュニケーション力を高める科目を配置する。
	【技能・表現】 (独創力、実践力)	デザイン・工芸分野において必要とされる技能、表現力を身に付け、新たな価値を創造する能力と文化的でより良い暮らしや社会への貢献に取り組むことができる能力と態度を身に付けている。	素材に対する知識と技術を身に付け、自身の表現の幅を広げ、作品に展開できる科目を配置する。
			1年次 【実】 工芸基礎(染) 【実】 工芸基礎(織) 【実】 工芸基礎(刺繍) 【実】 工芸基礎(陶) 【実】 工芸基礎(ガラス) 【演】 CG演習
			2年次 【講】 材料学A(繊維) 【講】 材料学B(陶ガラス)
			3年次 【演】 プレゼンテーション演習
			2年次 【実】 テキスタイル(染、織、刺繍) I 【実】 染 I 【実】 織 I 【実】 刺繍 I 【実】 陶・ガラス I 【実】 陶 I 【実】 ガラス I 3年次 【実】 染 II A 【実】 染 II B 【実】 織 II A 【実】 織 II B 【実】 刺繍 II A 【実】 刺繍 II B 【実】 陶 II A 【実】 陶 II B 【実】 ガラス II A 【実】 ガラス II B 4年次 【実】 染 III 【実】 織 III 【実】 刺繍 III 【実】 陶 III 【実】 ガラス III
			4年次 【実】 卒業制作